

2019年度 事業報告

社会福祉法人 晴誉会

1、総論

社会福祉法人晴誉会の掲げる理念のもと、以下の各項目において方針に則った保育・教育活動、施設運営の実現を目的として、下記のとおり事業を実施した。

2、2019年度の動向

<保育・教育無償化>

2019年10月より保育教育の無償化が開始された。両園ともに十分な準備を行ったうえでの導入となった。

<新型コロナウイルスの感染拡大>

2020年3月より新型コロナウイルスの感染拡大のため、晴誉会の各施設では行政の指導の下、様々な行事の中止や保育活動の自粛を行うことになった。

<法人体制>

2019年度は、2施設の安定運営を目的とした法人事業活動を行った。

<地域の保育概況>

2019年度は茨木市全体で、依然として待機児童数がやや高い水準で推移している。

全体的には小規模保育所による3歳児難民の影響もあり、待機児童が非常に多い年度であった。北部地域（山手台・彩都の地域）においては、待機児童数が就学前の全年齢で多く、ある程度の福祉ニーズが見込まれた。

2019年度は山手台で新町3丁目が街びらきとなり新規転入者が多く、結果として0歳児が非常に少ない状態であった。

<運営>

待機児童の解消のため、両施設ともに過去最大級の児童数と職員数を抱える形となった。配慮を要する児童の割合は依然として増えている。

<事業>

2019年度では新規事業は実施していない。

両園共に継続して両施設ともに緊急一時預り保育（地域子育て支援事業）、山手台保育園では学童保育事業（自園型）を実施した。学童保育事業は2019年度をもって事業終了となった。

<職員体制>

児童福祉法における最低基準を大幅に上回る配置を維持した。

<人材育成>

今年度も計画に基づき、各種の養成研修を実施した。

3、施設運営・法人運営

<法人>

- ・ 2019年10月から幼児教育・保育無償化となった。
- ・ 法人全体の運営状況としては、概ね当初の計画の通りの推移となった。
- ・ 経営状況としては、見込みに対して概ね想定内での推移となったが、今年度は当初より損益が想定されていたため、マイナスの決算となっている。

<山手台保育園>

- ・ 園舎は建築40年を迎えており、基礎部分での老朽化した設備・備品に関しては、今後の計画的な再購入・再整備が必要となっている。
- ・ 地域の保育ニーズとしては、年間を通じて高いニーズが感じられた。

<彩都保育園>

- ・ 園舎は建築15年を迎え、園舎や基礎部分での老朽化した設備・備品に関しては、今後の計画的な再購入・再整備が必要となっている。
- ・ 地域の保育ニーズとしては、年間を通じて高いニーズが感じられた。

4、事業報告

<総論>

2019年度でも、当法人においては保育サービスの維持を念頭に、前年と同内容の保育に努めた。

5、その他

特になし

以上